# 第1回誇りがもてる美しい都市分科会　議事要旨

1　開催日時
　平成 26 年 1 月 14 日(火)　16 時 00 分～17 時 00 分

2　会場
久留米商工会館 2 階　202 会議室

3　出席委員(順不同)
　委員 6 名
　坂井政樹委員、石井俊一委員、池尻登委員、藤田八暉委員、藤田雅俊委員、深井敦夫委員

4　欠席者
　委員 2 名
　津留崎芳春委員、大森洋子委員

5　議事
　(1)久留米市新総合計画次期基本計画骨子案について
　(2)その他

## 発言要旨

### 1. 委員紹介と役員選出等

#### (1)委員紹介

■事務局より、分科会委員を紹介。

#### (2)役員選出

■事務局から、分科会長に藤田八暉委員、副分科会長に坂井政樹委員という提案があり、承認。
■藤田八暉分科会長、坂井政樹副分科会長より就任挨拶。

#### (3)自己紹介

■各委員が専門分野などを含めて自己紹介。

### 2. 議事

#### (1)久留米市新総合計画次期基本計画骨子案について

■事務局より、久留米市新総合計画次期基本計画骨子案及び次期基本計画基礎調査報告書の 194 ページ以降について説明

○藤田八暉分科会長

今回はフリーディスカッションということで、ご自由にご質問ご意見等を出していただきたい。先ほど説明があった次期基本計画基礎調査報告書の中で、61 ページからのところも、この分科会の審議に関係が深いと思うので、事務局に補足の説明をお願いする。

■事務局

「社会経済情勢と時代潮流」の中の低炭素社会、自然環境の保全の部分が 61 ページからあり、この分科会と関係が深い。また、90 ページ以降で、「市勢の主要データと現状分析」を整理しており、あわせて見ていただければと思う。

○藤田雅俊委員

第 2 節の「総合的な交通体系の確立」という点で、市民懇談会の意見では、バスなど交通の便に対しての意見が非常に多い。この懇談会の参加者は 40～50 代、60 代くらいの人たちが多く、日常的には車を使う人が多い中で、公共交通機関についての意見が多いというのは、久留米市の大きな特徴だと思う。その一方で、「自転車の似合うまちづくり」や「環境を育み共生するまち」という点では、あまり意見が出ておらず、環境に対して自分たちがどういう行動を取るのかという意識までは浸透していない。また、これは市民の生活者としての意見であり、物流など、事業者の意見が入っていないため、道路網など大きな問題については意見が出にくいが、久留米の産業をどのように支えていくのかという点もある。九州の骨格になる国道 3 号線の交通処理というのは大きな課題であり、利便性を考えた交通計画を、バスも含めて考えていく必要があると思う。

第 1 節の 3 番目「魅力ある歴史資源の未来への継承」で、久留米市には誇れる様々な文化財があるが、例えば篠山城、ブリヂストンの工場がなんであの場所にあるのか、歴史を意識していることは、あまりない。これは、市の歴史、成り立ちを意識する機会が少ないからだと思われ、コンソーシアムや市もPRに取組んでいるが、実際、街中を歩いて感じにくいところもある。久留米市の景観などの大きな方向性を考えるときには、市民から意見をもらうべきだと思う。

○石井俊一委員

地元の大橋校区の現状として、子どもはここ 3 年間で約 40 人減り、今年から複式学級になる。高齢化率も高く、若い人が地元に残らない。校区のコミュニティ組織は強く、学校ともいろいろな取り組みが行われているが、どうしても住民のマイナスイメージが強い。コンパクトシティというのも分かるが、善導寺を地域の生活拠点としていくということに対して、大橋にも草野にも何もないという声が地元であがっている。土地利用や開発の問題もあり、今後都市計画区域になる田主丸地域も同じような状況になっていくのではないかと思う。

○池尻登委員

市の中心部にはマンションが建ち人口が増えているが、住民の交流があまりなくなっている。

校区では、小学校の交通安全指導をしており、小学生との交流で、小学校の教室に招かれて給食を一緒に食べたり、昔の遊びを教えたりしている。

ただ、まちづくりというだけではなく、小さいことをどんどん積み上げていかなければいけない。

○深井敦夫委員

歴史や文化の使い方、古代でいえばいろんな遺跡や国府跡など発見され、近世でいえば大きな企業の発祥の元になったところでもあり、ストーリー性を作って何かうまく繋げながら発信する手立てというのを考えていく必要がある。

インフラ関係では、全国的にみて、九州は道路整備率が低く、公共交通網があまり発達していない。生活、ビジネス、産業などの活動で、ある程度自動車に依存せざるを得ない状況である。

そういう中では、幹線道路や公共交通機関の課題への対応を計画的にやるべきである。
まちなかでは人口が少し増えているという話も聞くが、全体的には減っていくので、都市構造とそれを支える交通ネットワークのことを考える必要がある。また、この分科会とは少しずれるが、地域で食べていけるような手段、職業選択として魅力ある農業などもあわせて考えていく必要があると思う。

○坂井政樹副分科会長
総合計画は市の最上位計画であり、非常に重いものになると思う。個別の課題もさまざまあるが、全体としてどういう構図で絵を描いていくのかという、その基本的な立ち位置が重要になると思う。例えば公共交通について、交通事業者に対しての補助、コミュニティバスの実験などをやっているが、要望はあるのに利用しないというミスマッチを今まで何回も繰り返している。そういうことも含めて、ちゃんと整理をして、市民の皆さんを巻き込んでいかないと機能しないと思う。
自転車についても、環境面、健康面で非常に有効と言われて利用者も多いが、放置自転車、盗難の問題がある。
全体のしっかりしたところを議論していかないと、話がバラバラになるような気がしている。議論する時間が全体で 3 回しかなく、時間的にきついと思うので、具体的に施策の細かい部分まで踏み込んで議論するのかを確認したい。

■事務局
具体的な取組みや事業の話を全くしないということではないが、基本的には、「誇りがもてる美しいまち」にするためにはどういった施策が必要か、重要な視点、新たな視点としてこういったことも必要なのではないかなど、施策としてどうあるべきかを議論していただきたい。
それをベースに、4 月には、取り組み等を盛込んだ次期基本計画素案を事務局からお示しする予定であり、具体的な取り組みについては、そこから、詰めていただければと思う。まずは 3 月までに施策の論議をしていただきたい。

○池尻登委員
限られた時間なので、ある程度項目を決めたほうが、意見が出やすくなると思う。

○藤田八暉分科会長
8 ページからの各論だが、中分類の「環境を育み共生するまち」の中が 3 つの小分類に分かれており、3 番目で「生活環境の向上と自然環境の保全」と生活環境と自然環境がひとくくりにされている。
しかし、これはそれぞれがこれから重要なテーマである。自然環境の保全は生物多様性という概念を入れた意味の自然環境の保全とし、生活環境の向上については、PM2.5 の問題などもあり環境汚染の防止など良好な生活環境を確保するための取組を推進していかなければいけない。これを「快適な生活環境の保全」と、「豊かな自然環境の保全と共生」として分けて柱立てしたらどうか。

○深井敦夫委員
私も、生活衛生の話と自然環境の話とひと括りにしていいのか気になっている。8 ページの始めに、「花と緑あふれる空間づくり」が出てきているので、そこも含めて整理したほうがいい。

■事務局:
部会としてそういう整理がいいということであれば、次回、部会としての意見をまとめていただき、そう整理したい。

## 3. その他

■事務局より、次回分科会の日程調整について説明

## 4. 閉会

○藤田八暉分科会長より、閉会のあいさつ